

まつのやま学園運営協議会 第1回会議録

令和7年6月18日（水）15時00分～16時30分

会場：多目的室 全体進行：市川 会議録：柳

1 開会の挨拶 （志賀会長、渡邊学園長）

2 協議 （議長：志賀会長）

(1) 学園運営協議会委員、地域コーディネーターの委嘱 （市川教頭）

① まつのやま学園運営協議会規約について

② 学園運営協議会組織について

- ・ 学園運営協議会規約、学園運営協議会組織について確認がされた。

(2) 学園経営方針について （渡邊学園長）

- ・ 雪里留学等（学区外通学、地域外通学、移住、藤倉ハウス（入寮）他）の子どもの在籍数が、全体の約3割となった。少子化、自然と人との共生、人と人との共生など、地域の課題が学園の課題でもあると捉えている。グランドデザインにもあるように、「からだ（体）・まなび（学力）・ゆめ（生徒指導）」の取組と、それを下支えする「きずな（インクルーシブ・総合支援）」を充実すべく努めている。雪里の特色を生かし、地域と共に歩む学校、選んでもらえる学園を目指す。
- ・ 今年は特に「ENJOY & CHALLENGE」をモットーに、教育目標である『生き生きした子ども』の育成に教職員一丸となり教育活動を推進している。

(3) 令和7年度のコミュニティ・スクールを活用した教育活動について （市川教頭）

- ・ 児童生徒の在籍数の推移の説明、運営委員会、学園の主な行事について確認された。

(4) 小中一貫小規模校全国サミットについて （市川教頭）

- ・ 令和7年10月10日（金）開催。日程の概要、主な内容等が説明された。

(5) 創立10周年記念事業について （渡邊学園長）

- ・ 基本計画の策定、実行委員会を組織しつつある。詳細は今後決定される。今年度中に準備会及び実行委員会を立ち上げるため、後援会を中心に組織を固めていきたい。記念式典、祝賀会、記念品等の詳細は、今後検討する。

(6) その他 （市川教頭）

- ・ 学校運営協議会の今後の予定、謝礼、旅費等について確認された。

4 閉会の挨拶 （日木副学園長）

学園運営協議会（まつティ・スクール） 3 部会記録

※ まつティ・スクールとは、学園運営協議会を中心とした学園運営の共同組織体コミュニティ・スクールのことで、まつのやま学園では、通称「まつティ・スクール」と呼んでいます。

【 学園づくり部会 】

- 昨年、産業祭について話をしたが、選挙があり中止となった。
- 情報発信の工夫が必要。複式学級について、雪里留学について、学園運営について等
- 9月2日 松之山地区交通死亡事故ゼロ 5,000 日達成、9月6日に式典を予定している。
- 7月23日 東京より雪里留学の見学がある。地域の特色（スキー、アウトドア部など）を出し、選ばれる学校を目指す。
- 藤倉ハウスについて、複数人の入居を目指して、広報はHPが主である。SNSなど、より広くPRできる手段を検討したらどうか。
- 全国サミットのシンポジウムについて
 - ・ どのようなテーマにするとよいか。更に、スピーカーは提案どおりでよいか。→人との共生、自然との共生をテーマに。
 - ・ より広くサミットについて発信したらどうか。
 - ・ シンポジウムのテーマ検討

【 学園教育充実部会 】

- まつのやまタイム各学年の取組内容について（部会参加の担任より報告）
 - 1・2年生 生き物・遊び 地域ならではの活動。
 - 3・4年生 松之山の魅力発見 暮らし・自然・人・歴史とかかわりを具体的に行っている。
 - 5年生 稲作 携わる人の思いを大切にしている。
 - 7年生 松之山の人々 教科の中では見られない表情が見られている。
 - 8年生 働くということ やりがいや苦労、地域が何をしているか、自分たちには何ができるのかを8年生に伝えていく。
 - 9年生 商人体験
- 小中一貫小規模校全国サミットの「子どもサミット」について
 - ・ 松之山や学園の紹介、他校の魅力や情報交換を行い、地域や自分たちの未来について話し

合う。1回目7月、2回目9月、3回目10月（全国サミット当日）の予定。

○ 委員より

- ・ どの学年のまつのやまタイムも、松之山の魅力に気づき発信していこうとしているように感じられた。CSメンバー、ティーチングサポーターと一緒に考え、手伝っていきたい。それぞれ学年に応じた子ども目線での魅力を大切にしていきたいと思う。
- ・ 移住してきた人とのかかわることで、地元民ではない視点で参考になることもあると思う。生まれも育ちも松之山という人ではない人とのかかわりもあるとよいのではないか。当たり前すぎて気づかない魅力に気づくことがあるかもしれない。
- ・ 雪里留学で来ている保護者から、「運動会が、学園みんなで作り上げている感じが感じられ、大人数の学校にはない良さが大いに発揮されていて感動した」と話があった。

【家庭教育充実部会】

○ 養護教諭より、5月に実施した中学部の「生活習慣アンケート」の状況を報告

- ・ 休日に8時間以上メディアを使う生徒が16%いる一方、家庭でメディアの使い方の約束を決めている子どもは45%。半数以上がメディアの決まりがない。など

○ PTAとの協賛でのメディア講演会について、内容の検討、役割分担を決めた。

日時：令和7年9月18日（木）午後、

対象：5～9年生・保護者

内容：前半・「メディアと健康（仮）」講演会

後半・保護者、地域の方と、講師も参加してのグループでの語り合い

○ 講演会、子どものメディア使用等にかかわって、以下のような意見が出された。

- ・ 講演会後、子どもたちの振り返りを行ってほしい。
- ・ 子どもたちの環境として、友人宅まで遠く、どうしてもメディアに依存する時間が増えるとおもわれる。メディア以外の過ごし方についていいアイデアがあれば教えてほしい。
- ・ SNS、ゲームは子ども同士のコミュニケーション手段にもなっていて、自分だけ止めたいと子どもには言いづらい。
- ・ 子どもは外での活動、釣りなど子どもも好きだと思うが、親が友達の家まで送迎するか、活動場所に連れていくとかフォローができない現状がある。子どもが多い、少ないにかかわらず、今の子どもはゲームやSNSをしている。それが課題である。
- ・ 民生児童委員の会議が当日予定されている。ぜひ民生児童委員も参加させてもらいたい。
- ・ 去年はメディアの危険性を学んだ。今年はメディアの健康被害について学ぶ機会としてほしい。睡眠に与える影響以外にも、視力、メディア中毒など、広く健康被害について子どもたちに伝えてほしい。
- ・ 今回は5～9年生が対象だが、1～4年生にも健康に及ぼす害について学ぶ機会を作してほしい。